

申込方法

①来館(羽曳野市軽里 1-1-1 はびきの市民大学カウンター)②電話③FAX ※先着順
 【対象】市内・市外を問わず、どなたでもお申し込みください。

【敬称略】

入門仏教講座【日本仏教の信仰と歴史—祖師と宗派】

【日時】(土) 13:00～14:30
 【場所】LIC はびきの【定員】60人【受講料】3,000円
 【申込】12月7日(土)まで
 【講師】四天王寺大学 教授 藤谷 厚生ほか

1	12/21	浄土教と末法思想 - 空也・源信
2	1/11	鎌倉仏教 1- 浄土の救い (法然・親鸞・一遍)
3	1/18	鎌倉仏教 2- 禅の思想 (栄西・道元・鎌倉禅)
4	2/1	鎌倉仏教 3- 民衆救済 (日蓮、南都の仏教復興)
5	2/15	室町時代の仏教 - 禅思想と日本文化
6	3/7	江戸時代の仏教 - 仏教復興と宗門制度

素粒子の世界

【日時】(土) 15:00～16:30
 【場所】LIC はびきの【定員】60人【受講料】3,000円
 【申込】10月26日(土)まで
 【講師】大阪市立大学大学院 准教授 丸 信人

1	11/9	量子力学と相対性理論
2	11/16	素粒子発見の歴史
3	11/30	ヒッグス粒子発見と質量の謎
4	12/14	異次元空間
5	1/25	ニュートリノ
6	2/8	暗黒物質

まち遺産～街の魅力の磨き方～【学長企画講座】

【日時】(土) 10:30～12:00
 【場所】LIC はびきの【定員】60人【受講料】3,000円
 【申込】12月28日(土)まで
 【講師】武庫川女子大学 准教授 三宅 正弘ほか

1	1/18	美食空間学にみる世界のおもてなし
2	1/25	アートや文化を通じてまちをデザインする
3	2/1	「見る観光」から「その街に暮らしているような観光」へ - 外国人旅行者と市民が一緒に遊べる街づくり -
4	2/8	道頓堀ミュージアム並木座にみる、劇場街歴史ブランドディング
5	2/15	歴史遺産の過去・現在・未来～古市古墳群の場合～
6	2/22	羽曳野市の文人・スターたち

生涯学習フェスティバル

【日時】10月12日(土) 9:00～17:30
 13日(日)、19日(土) 9:00～16:30
 【場所】LIC はびきの1階アトリウム
 【内容】近隣の大学では何が学べるんだろう?大阪初の世界遺産に登録された「百舌鳥・古市古墳群」や大阪府内の私立中学校・高等学校や大学設置の博物館などをご紹介!学校案内のパンフレットやオープンスクールのちらしなどを配布します。資料はご自由にお持ち帰りください。

赤ちゃんから小学校に通う子ども(児童期)の育ちについて考えましょう【四天王寺大学特別公開講座】

【日時】(日) 10:30～12:00
 【場所】LIC はびきの【定員】各20人【受講料】無料
 【申込】各講義日前日まで ※1講義ずつ申込可
 ※お子様と一緒に受講可。託児サービス有り。(要問合せ)

1	11/10	赤ちゃんから幼児期の子どもの育ちについて学びましょう
2	11/17	児童期の子どもの育ちについて学びましょう
3	11/24	子どもの食物アレルギーについて学びましょう
4	12/1	幼児期の子どもの発達障がいについて学びましょう
5	12/8	児童期の子どもの発達障がいについて学びましょう
6	12/15	子どもの感染症について学びましょう

世界文化遺産 百舌鳥・古市古墳群を描いた歴史作品を鑑賞する

【日時】(日) 14:00～15:30
 【場所】LIC はびきの【定員】30人【受講料】各500円
 【申込】各講義日前日まで ※1講義ずつ申込可
 【講師】作家・文芸ソムリエ 土居 豊

1	11/17	羽曳野ゆかりの古代史小説を読む
2	12/1	応神天皇陵や竹内街道ゆかりの歴史作品を楽しむ

裁判員を知ろう～10年の歩みとこれから

【日時】(水) 10:30～12:00【場所】LIC はびきの
 【定員】各30人【受講料】第1講義 無料/第2・3講義 各500円
 【申込】各講義日前日まで ※1講義ずつ申込可

1	11/6	裁判員制度の歩み
2	11/20	司法記者から見た10年の歩みとこれから
3	12/4	裁判員経験者と市民活動から見た10年の歩みとこれから

オータムコンサート『世界を巡る音楽旅行』

【日時】10月12日(土) 13:00～16:15
 【場所】LIC はびきの1階ホールM
 【出演】大阪音楽大学音楽専攻科生



ユネスコ世界文化遺産登録によせて 「いまを生きる古代史」

【特別出演】
 玉岡 かおる (作家、大阪芸術大学教授)
 河内 厚郎 (はびきの市民大学学長)
 【内容】第43回ユネスコ世界文化遺産に「百舌鳥・古市古墳群」が選ばれたが、古墳時代以降、この地域の歴史にはどんな物語があったのだろうか。



玉岡 かおる